

# 発想を広げ構想を深め、進んで表現できる児童の育成

～「試しの活動」と「交流活動」を取り入れた指導の工夫を通して～

図画工作・美術班

早矢仕智陽（小学校教諭）

●みんな図工の授業が大好き、絵を描くのが楽しい。けれども、なかにはこんな児童もいます。



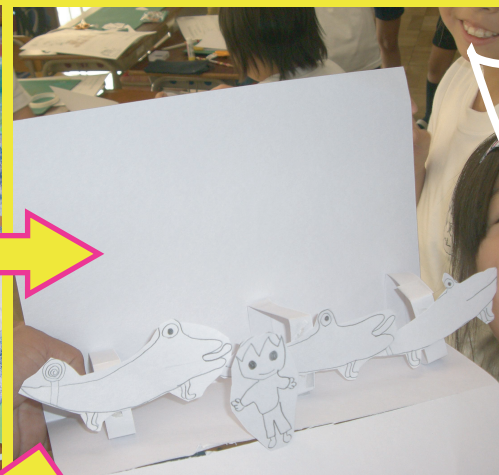
これらは児童が題材に対して、十分に発想を広げたり構想を深めたりできていないことが原因です。そこで、以下の手だてを学習の過程に設けてみました。

**「試しの活動」**…素材に十分に触れたり、用具を扱う技能を高めたりする時間。

**「交流活動」**…自分の思いや、友だちのよさを伝え合う時間。

●授業実践 第3学年「そのときの気持ちを大切に」～エルマーのぼうけん～

①つかむ過程  
物語「エルマーのぼうけん」を聞いて、描きたい場面を選びます。アイデアスケッチの後、ローラーや切り紙を使って画用紙に色を重ね、森の中の様子を表します。



②ひろげる過程  
絵がとびだしたり動いたりする仕掛けを加えて、画面が変化する作品にします。「試しの活動」で、仕掛けをつくる練習をします。試しながら、もっと登場人物を増やしたり表情やポーズを変えたりすることを思いつきます。画面がだんだんにぎやかになっていきます。

③あらかわす過程  
ローラーでつくった森の中に、登場人物たちを、並べていきます。仕掛けづくりでつまづく児童はいません。製作の途中、「交流活動」で自分の工夫を発表したり友だちの工夫に気付いたりします。このあと全員の作品が、さらに楽しく変化していきます。



④あじわう過程  
完成した作品を友だちに紹介する発表会をします。選んだ場面をお話ししながら、絵を動かしながら発表します。

●「試しの活動」を設けることで、児童は材料や用具の扱いをしっかりと理解でき、自分の思いをつまづくことなく表し、作品をより楽しくしようとする構想力を高めることができました。

「交流活動」を設けることで、お互いの工夫を伝え合い生かし合う、柔軟な発想をもつことができました。

担当指導主事 義務教育研究係 田中 賢治